

## 第9回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成28年8月24日（水）18時30分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 16名  
事務局 7名

### 1 会長あいさつ

北海道では台風が3つも上陸し、また関東では大雨による被害が相次いでいる一方、西日本では暑い日が続いており、連日猛暑が続いているところである。皆さんの顔を見ていると元気にお過ごしのことと思う。

本日は、第2次光市総合計画について、また、光市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について事務局から説明をいただき、皆さんから意見をいただくこととしている。本日もよろしくお願ひ申し上げます。

### 2 事務連絡

- ・委員の交代について

東山口信用金庫の人事異動に伴う委員の交代について説明

新委員あいさつ

- ・近隣都市との比較について

光市と近隣都市（下松、周南、柳井）との比較について資料に基づいて説明

- ・議事の進め方について

事務局から議事進行の考え方等について説明

### 3 議題

#### （1）第2次総合計画について

事務局より資料に基づいて説明

#### 【質疑① 第3章 長期未来展望】

##### ●委員

第3章の長期未来展望の（2）まちの姿の展望の中で、中学生の意見とまちづくり市民協議会委員の意見については明示しているが、市民対話集会及び市民アンケートの意見はどのように取り扱うのか。また、まちづくり市民協議会で検証するとあるが、検証ではなく報告だけではないか。

●事務局

市民対話集会及びアンケートの意見も含めて具体的なまちのイメージとして整理していきたいと考えている。また、20年後の光市のイメージの中に取り入れられるものについては整理をしていきたい。

検証については、まちづくり市民協議会の中で委員の皆様からいただいたご意見を可能な限り取り入れるなどして次に繋げてきたところであり、そのような意味で、市民協議会の中で検証していただき、関わりをもっていただいていると考えている。

●委員

市民ニーズについて、平成19年からずっと見ているが、「バス交通網の整備」や「交通結節機能の充実」など、かつてはなかった項目が上位に出てきている。これらを考慮すべきである。また、「企業誘致、雇用の確保」についてはずっと上位にあるが、何も解決していない。市民ニーズが高い項目であるにもかかわらず、なぜ取り組もうとしないのか。他にも高齢者対策や財政の健全化、地震・台風等の災害対策については改善されたと考えているのか。

●事務局

「企業誘致、雇用の確保」については非常に難しい問題であり、ニーズが高いまま成果が上がっていないのが現状である。これについても企業立地の奨励金などの施策を講じてきたが、なかなか成果が出ず、市民の皆様には伝わっていない。地方創生の流れを受けて、今後は創業支援などにより解決を図ろうとしているところである。

ニーズ度が解消されたものについてであるが、これについては、施策の実施により解消されたのか、あるいは時代の移り変わりにより市民の関心が薄れてきたのかは把握できていないのが現状であるが、今後対応する必要はあると考えている。

●委員

「企業の誘致」と「雇用の確保」はイコールなのか。今から企業を誘致することは大変難しいと考えており、地場産業の支援に力を入れることによってUターンを促進すべきではないか。企業の誘致を待つのではなく、地場産業をいかに育てていくか、そして光市に戻って起業する人に対する支援に力を入れることが大事であると考えている。

●事務局

「企業の誘致」と「雇用の確保」はイコールではないが、関連があることから同列に表記しているところである。企業の誘致だけが雇用の確保に繋がる訳ではなく、産業振興によって雇用の確保に結びつけることも必要であると考えている。

●委員

光市に関心を持ち、光市で起業したいと思ったときに、将来のことを考えるとお墓の問題が出てくると思う。子供たちはここで生まれ育ったからふるさとは光市であるが、私のふるさとは九州であり、お墓も九州にある。遠くから引っ越してきたときは、お墓が遠いところにある可能性がある。このような時のケアについて、光市独自の施策があれば良いと思う。一つの提案として申し上げたところである。

## ●委員

光市の弱みを探せばいくらでもあるが、強みは少ないと思う。強みをどのように活かすかが大事になってくると思う。特に、地域と行政の役割分担、つながりが大切である。1番目のプロジェクトの中に「地域コミュニティ活動の活性化を支援する」と記載しているが、それだけではなく、コミュニティスクールとの連携についても積極的に進めていただきたい。

また、医療について、新病院を移転新築することは良いが、有名な医師を確保して、近隣市町からも人を集めることができるようにしてほしい。防災・減災推進については、市全体で行う防災訓練以外にも地域ごとに行う訓練も必要であると思う。

## ●事務局

重点プロジェクトについて、現在は11ほどあげているが、もう少し絞り込んで整理していきたいと考えている。コミュニティスクールについては、市内でも活発な取組が行われており、光市の大きな特色の一つとなっていることから、これまで以上に前面に出して進めていきたいと考えている。医師確保についても、大事なテーマであると考えている。地域ごとの防災訓練について、来年度以降どのような形になるか分からないが、今後も各地域と連携を図りながら進めていきたいと考えている。

### 【質疑② 第4章 まちづくりの考え方】

## ●委員

重点目標の2のところの項目の出し方が、政策1が「学校教育の推進」、政策2が「教育環境の充実」、政策3が「地域ぐるみの教育の推進」となっているが、政策1の「学校教育の推進」が、非常に大きな項目のように感じられる。

なぜかというと、政策2の「教育環境の充実」も学校教育の話であり、政策3の「地域ぐるみの教育の推進」も学校教育の話であると思う。

政策1「学校教育の推進」は“教育内容の質の向上”をイメージしていると思うが、そのあたりがわかるような見出しの方が良いと思った。

99ページの「(4) 教職員の資質の向上」が政策1「学校教育の推進」の中にあるが、これはもしかしたら政策2の「教育環境の充実」の中に入るのかもしれない。そのあたりの調整が必要になるかもしれないが、見出しは分かりやすい方がよいと感じた。

## ●事務局

確かにイメージ的には政策1「学校教育の推進」が質的なもので、政策2の「教育環境の充実」がハード面など、政策3が「地域ぐるみの教育の推進」はコミュニティスクールのような地域と連携して取り組むような教育というような形でのイメージである。

「学校教育」というのが非常に幅広いというご意見を頂いたので、このあたりは教育委員会とも相談して整理を進めていきたい。ちょうど今、このような部分について教育委員会に投げかけて調整中であるので、その中でもう少し分かりやすい名称に整理していきたい。

●委員

新病院という新しい施設ができて、それを使う医師の確保が非常に重要になってくると考えている。現在の病院にも山大などから医師が来てくれているが、非常に待ち時間が長くなっている。徳山中央病院では予約の時間通りに診てもらえるが、光市立病院は予約していても2、3時間待たされることは良くあると聞いている。このような課題を解決するためにも医師確保に力を入れていただきたい。

【質疑③ 第5章 (仮称) 重点プロジェクト】

→意見なし

【質疑④ その他 (第1章、第2章及び第6章以降の部分を含めて全体)】

→意見なし

●事務局

皆様からいただいた意見については、現在策定作業を進めており、その中で参考とさせていただきたいと考えている。議題1については以上とさせていただく。

(2) 光市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局より資料に基づいて説明

【質疑】

●委員

1ページの施策目標に「地元の食材を購入している人の割合」と「学校給食における光市産品の使用率」があり、それぞれ平成27年度の実績値を見ると82.0%と22.4%となっていて、この2つに大きな差がある。ここでいう「地元」というのは「光市産」とは違うのか。

●事務局

「地元の食材を購入している人の割合」というのは市が毎年行っている市民アンケートの結果から持ってきた数字を入れている。一方、「学校給食における光市産品の使用率」については、学校給食センターにおいて、給食の中で使用している食材のうち、光市産のもの割合を示したものであり、少し意味合いが異なるものである。

アンケートの中で、「地元」が「光市」を指すのか、「山口県内」を指すのかは明記しておらず、受け止め方は人によって違うため、厳密には把握できていない。

●委員

地元の食材を購入している人が8割もいるのなら、学校給食でももっと光市産の食材を使用したらよいのではないかと。そうすれば地元の農家や漁師の方も潤って良いと思うのだが。

●事務局

学校給食は1日に4,000食ぐらい作っているが、それだけの食材を準備しようとするれば光市産だけで対応することは困難である。里の厨等とも連携を図りながらやっているとは思いますが、どうしても限界がある。また、季節によって、どうしてもとれないものもあるため、数字が伸びていないという現状である。

●委員

3ページの基本戦略④「まち全体が教室！」連携と協働の教育実践戦略の施策目標に「青少年健全育成活動に参加している市民の割合」があり、平成27年度の実績は54.5%であるのに対して、平成31年度の目標値が25.0%となっている。設定した目標値が低すぎると思うが、どのように考えているのか。

●事務局

この項目についても市民アンケートの結果から持ってきた数字であるが、実は、一昨年度までは単に「青少年健全育成活動に参加していますか」と聞いていたが、所管課と話をする中で、活動の中身がわかりにくいのではないかという話になり、昨年度から「青少年健全育成活動（PTA、子ども会、クリーン光など）に参加していますか」というように具体的な事例をあげたところ、数字が一気に増えてしまった。目標値については、次の改訂まではこのまま行かせていただきたいと考えている。ただし、これについては総合計画の中でも同様の指標を設定することになるので、整理を行いたいと考えている。

●委員

2ページの成果目標に「都会からの転入者数」とあるが、この「都会」の定義について、教えていただきたい。

●事務局

東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、大阪圏（大阪府、京都府、兵庫県）及び近隣の広島県及び福岡県の合計9都府県を「都会」として位置付けているところである。これについては総合戦略の中にも載せているので、またご覧いただきたい。

## 4 その他

### ○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・「出会いの場創出促進事業」について資料に基づいて説明
- ・今後の予定について説明

次回会議において、計画全体が見える資料を示した上で、専門部会において協議していただく。（時期は10月中旬頃を予定）

全体会については11月中旬頃の開催を予定している。